

# 令和4年度 旧日本銀行新潟支店長役宅「砂丘館」 指定管理者事業計画

## 1. 運営の基本方針

一般見学、貸室、自主事業の3つを柱として、建物の風格にふさわしい文化の香り漂う場として、市民により親しまれる施設となることを目指します。

## 2. 自主事業

別紙のとおり

## 3. 一般見学、貸室

### ○ 一般見学の集客計画

砂丘館は静かな落ち着いた雰囲気を楽しみに訪れる方が多い施設です。入館者数を増やすことだけを目標にするのは馴染まないと思っております。また、コロナが終息しないことから入館者数を例年より2,000人減の10,000人とします。貸室を過度に増やすことは見学するスペースが減ることになり見学者の不満につながります。現状が見学者数、貸室実績ともに程よいのではないかと考えます。

冬期間の夜間は入館者数が少ないことから、昨年度に2カ月間閉館時間の短縮を行ったところ、サービスの低下につながる大きな影響はありませんでした。そのため、令和4年度も実施する方向で進めていきます。

### ○ 貸室の利用促進計画

利用促進の広報と、利用者へのサポートを進めていきます。

多様な用途で利用できること、飲食も可能であることなどを積極的にアピールしていきます。現在すでに行っている、テーブルや座布団、お茶道具などを貸し出しするサービスについてもさらに広報で積極的にアピールしていきます。

また、展覧会・コンサートなどの利用では、準備段階からサポートを行い、利用促進を図ります。

## 4. 人員体制

### ○施設職員

職 種	員 数	備 考
館長	1名	学芸員
受付	5名	
生活文化企画運営担当（非常勤）	1名	
自主事業担当（非常勤）	1名	

### ○本社職員

本社指定管理担当職員（本社勤務）	1名
------------------	----

本社は、館から報告を受けるとともに、随時必要な指示と支援を行います。

## 5. 自己評価の手法

広く施設見学者・利用者の生の声を集めるために、アンケートや感想ノートを常備します。また、自主事業時にはその都度アンケートを実施し、感想・意見を集めます。

アンケートの回収率を上げるため、イベント時にはアンケート用紙をチラシと一緒に渡し、イベント終了後書いていただくよう声掛けをします。

毎月、館職員・非常勤職員、新潟ビルサービス担当者を交えた運営ミーティングを実施し、施設見学者・利用者の意見や要望を検討します。導き出された改善点や新たなアイデア見学者・利用者が関心を持てるような企画または運営方針を再構築し運営に活用します。

## 6. 収支予算

### 【収入】

(単位：千円)

科目	金額	主な内容
指定管理料	12,677	市からの委託料
自主財源	2,255	イベント収入、企業メセナ、寄付金、喫茶収入等
合計	14,932	

### 【支出】

(単位：千円)

科目	金額	主な内容
人件費	10,022	
管理費	2,655	光熱水費、施設案内パンフ作成・発送費等
自主事業費	2,255	人件費、企画展作家謝礼、チラシ作成費、喫茶運営費等
合計	14,932	

## 砂丘館 2022年度自主事業計画（30事業）

- ① **自主企画展**／新潟のすぐれた美術家や、新潟に関わりなく、すぐれて現代的意義を持つ作家の個展やグループ展をギャラリー他を会場に開催する。（6事業）

### 企画展

#### 映像展示2022 Ayano Hattori/mikkyoz016

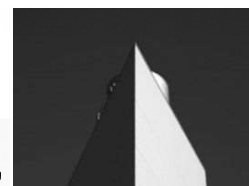
前期 4月13日（水）～24日（日） Ayano Hattori

後期 4月26日（火）～5月8日（日） mikkyoz016

毎年開催してきた映像展示シリーズ。今回は長岡市在住で批評的な映像作品を制作する Ayano Hattori と毎年新作を砂丘館で発表してきたユニット ikkyoz の新作を展示する。

上 Ayano Hattori 「福島では何も見なかった」

下 mikkyoz015より



#### 昭和30年代の新潟 斎藤應志展（仮）

6月2日（木）～7月10日（日）

中条町（現胎内市）に生れた斎藤應志（1903-81）は新潟師範学校卒業後、新潟市で教員をしながら絵を描き続けた。戦前の県展の創設と運営にも関わり、戦後の昭和30年代にはスケッチ板に新潟市の現中央区を中心とした風景画を約800点も残した。そのうちの400点を展示し、半世紀以上前の新潟の町の光景をよみがえらせる。



斎藤應志作品

#### 榎本千賀子 阿賀野川プロジェクト展

8月4日（木）～9月11日（日）

福島県金山町に残された写真を探索し、地域の記憶や歴史を掘り下げた写真家・写真研究者の榎本千賀子は、2020年に新潟大学に赴任し、以後新潟と金山町をつなぐ阿賀野川沿いの風景を訪ね「阿賀野川プロジェクト」として多数の写真を撮り続けている。その写真群を紹介し、かつて地域の交流の道であった川の記憶と現在を探る。



榎本千賀子作品

#### 石山与五栄門の写真

10月8日（土）～11月13日（日）

蒲原平野が広大な低湿地だった時代から現在の乾田となった田園地帯に変わろうとしていた時代に、西蒲原（旧巻町）を拠点に地域の生活を記録し、写真に捉え続けた写真家・郷土研究家の残した写真約2万点が新潟大学地域映像アーカイブセンターによりデジタル化されたのを機に、砂丘館と西蒲原の2会場で、その写真を複数の切り口により紹介する。



#### 特別展示 栗田宏・梅田恭子

12月21日（木）～2023年1月22日（日）

砂丘館で作品をお預かりしている栗田宏の作品と、2021-22年の特別展示を機に新たな作品を預かることになった梅田恭子の仕事を紹介する。二人の濃密で繊細な画面が冬の砂丘館で静かな共鳴音を奏でる。



栗田宏作品



梅田恭子作品

## ジャン・フランソワ・ゲリー展

2023年2月16日（木）～3月26日（日）

2020年に77歳で亡くなった写真家ジャン・フランソワ・ゲリーは晩年30年近くを新潟で暮らした。亡くなる年に新潟の海岸に通い、撮影した流木シリーズを砂丘館で2020年（病没直前）に映像化して紹介したが、新たなスライドショーに編集しなおした「流木」と銀塩プリントで撮影された写真を中心に独自の視点で世界を見つめつづけた写真家の目の軌跡を概観する。



ジャン・フランソワ・ゲリー「流木」より

### ② 芸術文化の活動／蔵や居間・茶の間・座敷を会場に、新潟の音楽家、パフォーマーの公演を行う。

実施予定の活動（10事業）

岡本宮之助新内公演（4月9・10日）・猿八座公演（5/3）・薫風之音ライブ（6月26日）・林家正雀落語公演（7月23・24日を予定）・渡辺百枝篠笛ライブ（9月23日）・史佳ライブ（10月15日を予定）・宮本尚見・能勢山陽生ライブ（11月22日）・平原慎太郎ダンス（12月10・11日を予定）・ファビオ・ボッタツツォ/田中トシユキジャズライブ（12月18日）・堀川久子ダンス（時期未定）

### ③ 生活文化の活動／伝統的な住空間を生かした日本の生活文化を体験する催しを行う。（6事業）

- ・庭園実技講習： 松と高木の剪定 7月9日（土）を予定
- ・庭園実技講習： 雪囲いと雪吊り 11月5日（土）を予定
- ・五月人形展示（4月19日～5月15日）
- ・雛人形展示（2023年2月21日～3月21日）
- ・市民グループ「しつらい倶楽部」（主催：坪井蓉子）の協力で行う催し
  - ・秋HIYORI（和菓子を楽しむタベ＊「竹あかり花あかり連携企画」）協力：百花園・丸屋本店（9～10月）
  - ・香道入門講座（2023年2月）

### ④ セミナー（2事業）

- ・砂丘館セミナーの開催 2事業を予定
- ・「苔をまなぶ、苔をたのしむ」（4月23、5月7、14、28日）
- ・初心者のためのふるまちな新潟をどり鑑賞講座 8月27日を予定

### ⑤ 連携事業（2事業）

- 近隣施設との連携企画（企画展以外・2事業を予定）
- 同じ西大畑・旭町かいわいの文化施設と連携・協力して催しを行う。
- ・「竹あかり 花あかり」連携企画（竹灯籠による庭園ライトアップなど）
  - ・新春神楽めぐり 2023.1月（旧齋藤家別邸と連携）

### ⑥ そのほか（4事業）

- ・解説ボランティア養成講座
- 砂丘館の建物、庭について解説のできるボランティアを養成する講座（全3回）
- ・花と絵による館内のしつらい

ボランティアによる生け花、「砂丘館セレクション（新潟市内の所蔵家から借用した絵画）」で館内を飾る。

- ・ **見学者への解説**

解説ボランティア養成講座を受講したボランティアにより、来館者に館内と庭園の解説を行う。

- ・ **ボランティアによる庭園清掃**（4-7月 9-12月）

ほか協力事業として「松崎友紀・椿吾郎ダンス公演」（5月）、インド舞踊公演（10月）を開催する。